平成二十五年度

# 小国芸術村特別展

【小国地域ふるさと創生基金事業】

四月二十五日（木）～五月十二日（日）

休館日　四月三十日、五月七日

時　間　午前十時～午後五時

ヒマラヤの光を夢みて

小国芸術村　芸術村会館

新潟県長岡市小国町山野田二十

電話　〇二五八-九五-三一三五

主催／長岡市小国地域ふるさと創生基金事業実行委員会・長岡市

ヒマラヤの麓の村々には、車の入れない、歩くより他に行けない所がたくさんあります。

大きな山を上り下り、ときには、富士山よりも高い峠を越えて、何日もかけて村に着きます。

この道を、歩くだけのために来る外国の人もいます。

「なぜ来るかって、世界でここだけだよ、人が歩くだけの道は。」

ヒマラヤの紙は、こんな道を人の肩に担がれて村から町へやってきます。

ヒマラヤの雪解け水と、清々しい空の下、降りそそぐ太陽に育てられたヒマラヤの紙。

今年の小国芸術村会館は、このヒマラヤの紙から始まります。

ネパールから、〝紙布作家〟として世界的に活躍されているディーパック・シュレスタ氏をお招きして、作品の展示と地元小学生に紙布作りの体験学習を指導していただきます。

さらに、このヒマラヤの紙に魅せられた日本の作家の方々の作品を展示いたします。

ヒマラヤに咲く青いケシの花を描く須田靖子さん。

三船悦子さんの描く〝蟻ん子〟は、ヒマラヤの道を歩く人のようにも見えます。

ヒマラヤ杉の大木をノミでくり抜いて、内側から絵を描き、その上にヒマラヤの紙を押し当てて版画にした田中彰さん、

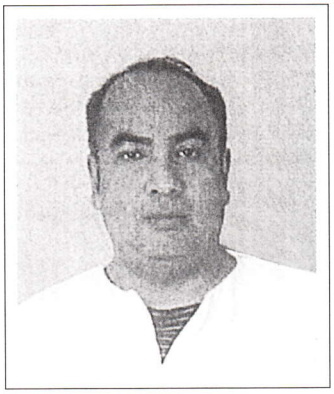
〝自由〟と〝喜び〟を描こうと試みる青木一香さんは、薄いヒマラヤの紙に墨と筆で線を引きました。

小国町山野田に工房を置く坂本直昭さんが、天然の染料で染めたヒマラヤの紙を、小川原めぐみさんは屏風に仕立てました。

かけがえのない地から生まれた
かけがえのない紙
かけがえのない光が
紙の中にあります。

プロフィール

## ディーパック・R・シュレスタ



一九六二年ネパール国カトマンズに生まれる。一九八二年紙漉き研修のため一年間、日本留学。帰国後、ネパール政府の製紙研究所に勤務。一九八八年紙布制作を始める。一九九八年～二〇一三年、日本、スイス、ギリシャ、アメリカ、韓国、フィリピン等で紙布制作のワークショップ、展覧会を開催。

お問い合わせ先
芸術村会館（開館日の午前10時から午後5時まで） ☎ 0258-95-3135
長岡市小国支所地域振興課 教育支援係 ☎ 0258-95-5905

入館料 無料

環境に優しい「水なし印刷」で印刷しています。
VEGETABLE OIL INK